

川崎の男女共同社会を **すすめる会通信** No.199

●連絡先 藤井光子 hymico@me.com ☎&FAX 044-944-7872 ●発行日2019年 11月25日
〒214-0003 川崎市多摩区菅稲田堤3-8-2-503 ●HP <http://web-k2.jp/ssk1985/>

非正規職シングル女性の現状とこれから

41人で考えた「社会の変化と女性の貧困」

◆講師 飯島裕子さん

ノンフィクションライター・大学講師

◆ゲストスピーカー 茂木直子さん

非正規シングル女性のピアグループ KIBI代表



飯島裕子さんのお話（要旨） 非正規で働くシングル女性が増えている。横浜市男女共同参画センターらの調査によると、非正規職で働くシングル女性の約7割が年収250万円以下、特に45～54才の約3割が年収150万円以下であるという。若年シングル女性の場合、“正社員雇用の経験がなく低賃金で働かざるを得ない”“職場でのパワハラ等の経験からうつになり働けない”などの仕事上の問題に加え、実家での家族とのトラブルなどの問題を抱えていることが明らかになった。

(1) シングル女性の貧困は今に始まったことではないが、長年不可視化されてきたのはなぜか？

(2) 一方、昨今の貧困に対する関心の高まりなどから、女性の貧困が少しは可視化されて来たようにも見えるが、それは問題解決に繋がっているのだろうか？ について考えてみたい。

① なぜ、女性の貧困は見えなかったのか

▶家族による隠ぺい 若い女性は家族といれば何とかかなと思われるが、実際家族からの暴力に苦しんでいたり、関係性がよくない場合が多い。▶男性稼ぎ主モデル 性別役割分業で女性の貧困が見えづらい。いずれ結婚し男性に養われるという考え。しかし男性の雇用も不安定で、パート女性は家計補助とみなされ、女性世帯主は無視されがちである。

② 女性の貧困は本当に見えるようになったのか？▶男性雇用の不安定 未婚率上昇などで男性稼ぎ主モデルはすでに崩壊しているともいわれるが、意識下では男性の稼ぎ主体がまだ残っている。▶シングルマザーの貧困は、こどもが主な支援の対象で親の貧困には目が向けられない。誰でも貧困に陥る可能性があり、それを自己責任といわれる。社会の構造的な問題と捉えづらく、政策、支援に結びつかないのが問題。

③ どのような支援が必要か？

▶現在単身世帯が一番多いのに、標準家族をもとにした社会システム（税・社会保障）はそのまま、偏った女性活躍推進（正社員、子育て世帯中心、非正規は劣悪化）となり公的な支援やつながる場がなく、忘れられた存在になっている。

★非正規の生活保障

（最賃up、同一労働同一賃金、男女差別賃金撤廃、不利にならない社会保障）

★常に100%では働けない

★再チャレンジできる社会（年齢差別・学歴差別をなくす）

一人で暮らせる権利の保障、公的住宅の入居、家賃補助など。





トーク&トーク それぞれの思いを語り

発言特集

◆男性 ●女性

◆ 男性の貧困、子どもの貧困、女性の貧困、日本の社会の構造そのものが格差を生じさせている。貧困と貧困でない部分を作り出している政治の構造に問題がある。いつも怒りを覚えていました。

● 大学院で、非正規職のシングル女性の問題について研究しています。私自身が高卒で非正規職で働いていて、自分の未来があまりにも暗いものにしか思えず、なんとか状況を変えたくて、大学、そして大学院に入りました。大学院で自分の研究をどう進めようかと迷っています。学歴と職業の関係を考えたい。「女性であり低学歴」で、選べる職業が限定されてしまうという現状がある。

自分が高卒で働いていて、コンプレックスから大学院まできているのですが、それが解決策になるとは思えない。学歴を得なければ職業を得られないという(社会)状況を変えたいと思うのですが、自分がどういう方向で何を研究したら社会が動くのか、解決策になるのかが見えていません。学歴と職業選択について二人から何かご意見を伺いたい。

茂木 男性の非正規雇用も増えて2割が男性、8割が女性です。データを見ると同じ非正規雇用でも、男性と女性では賃金格差があります。男性平均月収

22万、女性は20万以下が圧倒的に多い。学歴に関しても女性は学歴が高いにもかかわらず非正規雇用がほとんどだということは、社会的構造の歪み。男性が稼ぎ頭であり、女性は結婚して主婦になるという固定観念がいまだに正確に反映されているのが問題だと思う。

大学院本当に大変だと思う、学費に見合った仕事をされている方は、私のまわりでも結構少ないと思います。例えば心理学で大学院まで行って臨床心理士の資格とつても働けるところが手取り15万程度のカウンセラーだったりとか、学費払ったものどうしてくれるのかというくらい見合っていない。解決策は社会の構造を変えることしかないのではないかと私は思います。

飯島 中卒、高卒、大卒でみると女性の場合は男性以上に差がある。学歴職歴関係なく、女性は40才過ぎるとパートしかないのが現実です。専門職に就いていた経験があっても、みんな非正規。その人が一家の世帯主となり、一人暮らしできるだけの賃金が稼げないような仕事しか女性にはない。

学歴の問題も重要ですが、年齢差別や学歴差別を変えないと、どうしようもありません。

ゲストスピーカーの茂木直子さん当事者として語る

▶2015年の「非正規職シングル女性の社会的ニーズ調査」に参加するまで、女性は非正規でも当たり前と考えていました。なぜなら日本では男性は仕事、女性は家事という性別役割分業の意識が根強く残っているからです。社会の意識構造が非正規を作り出しているのに、当事者は自分がパート・派遣になったのは自己責任だと思われ声あげられないでいます。女性を貧困に陥らせた構造を変えなければ解決しないと思います。▶夫婦と子ども2人の世帯は、今は5%しかいません。貧困問題の支援には、居



住支援が共通していると私は思っています。住宅の取得が自己責任となっている。政府は持ち家制度をすすめているが、かたや空き家も沢山あります。新築持ち家制度をすすめていくと空き家も増えます。あまりよくない制度と思っています。いろんな人が入れる団地。今はお隣

に誰がすんでいるのかもわからない…

▶公的住宅を建ててもらうのが一番いいと思いますが、建てないのだったら家賃補助とか借り上げ等をやるべきではないか。いきなり生活保護ではなく、中間のセーフティネットが日本にはありません。中間に住宅政策があるべきだと私は思っています。



6割が非正規職で働いている… (非正規職シングル調査より)

人生100年とか言っている中で、再チャレンジできない現実がどれだけおかしいことかと、非常に感じています。

● 私も大学は出ていて、非正規雇用です。私の知人も大学院の博士まで出て研究者を目指していますが職がありません。今は学歴が高くても、一步まちがえたと職がなく貧困に陥ってしまう。でも自分が支援される側とは思われない、調査する側にはなりたくないけど、調査される側にはなりたくない。貧困として問題視されたくはない。

調査に協力した人は、自分が貧困当事者として自覚がどこかであるから、そういう調査に協力できたのだと思います。

茂木 ちょっと言葉が悪いですが当事者の意識が低いです。当事者団体をやっている、情報にいきつかなない(ことがわかります)。スマホではなくガラケー、FBとかツイッターとかSNSをやっていない。役所で受けるべきセーフティネットを知らない。

朝日新聞に私が報道されたとき、担当の記者さんから聞いたのですが、実家に住んでいる非正規雇用の大卒女性が、本人は報道されたいと思っているけど、父親が口を出してくるケースがあったそうです。「うちの娘を貧困問題とか、非正規雇用で働いている」のは恥ずかしいから出さないでもらいたい。もちろん匿名で顔出ししないという約束をしているにもかかわらず、父親の考えで疎外されてしまうこともあるようです。

飯島 支援が必要かといわれると、男女共同参画センター的なところが全国にあります。でもそこでは、例えば子育てを終えた女性のための講座とか、再就職したい女性のための講座はたくさんあるのですが、非正規シングル女性や無業のシングル女性のための再チャレンジ(再就職)などは殆ど行われていません。

介護の不安や、いろんな悩みがあるが、その人達に向けた講座はひとつもない。支援が何も無い状態を(社会に)言っていかななくてはならない。

非正規シングル女性に不利になるシステムを作っている社会がある。気がつけば可哀想な人にさせられている現実。当事者が声を上げづらい状況というのが、まさに社会の空気とか雰囲気を表しています。みなさん何も悪いことをしていないのに、(非正規シングル女性は)私たちが悪かったという立場に追いやられていることに(私は)すごく憤りを感じるし、(そこに)社会の空気があると思うんです。

未婚率も含めて、50代40代で4人に一人とか5人に一人がシングルだと思うんです。でもその人たちにも当事者の団体などが無いんですね。

シングルマザーや障害者の方々の団体はたくさんあります。その方々は支援される側という意識はなく、自分たちの権利として自分たちの必要性に応じて頑張っています。

◆ 声を上げにくいというのが社会全体にある。声あげること自体が変な奴、正論言うのがおかしい、お前がおかしいと。ある労働現場で若い人間が、タイムカード打たずに(休日)出勤する。5時まで終わるように言われたが自分の仕事が終わらないから来る。できないのは私が悪いんです(と考える)。声に出しにくい、声だしていくのが変だということを変えていかないといけない。すべてが自己責任みたいにみんな思っている。

● 私も非正規パートタイムで働いています。20～30年前に比べると、(責任を)パートの人に任せて、そのつけがどこかにくるのではないかと思っています。派遣労働者の枠を広げて、それに伴ってパートタイムという形で、実務を任せてきている。

私50代ですが、ゆくゆく考えると国の負担が大きくなっていくのではないかと思います。

● 労働組合で労働相談をやっています。月に100件を越える労働相談がきます。お二人が話された内容は毎日電話の向こうから訴えられてきます。

先ほど言われたように大学でも非常勤でしか雇ってくれない。時間給良くて2000円位。期間が定まらない不安定さ。

正社員で働いていて、長時間

そもそも支援って、何？

アラフォー/非正規/シングル/子どもなし気がつけば崖っぷち

生きづらい社会こそ、問われるべき
誰にとって生きづらい、働きづらい社会なのか？

支援「以前」の“支援”
居場所、つながりの構築
当事者どうしのエンパワメント、運動へ
「非正規シングル」から広げていく？



ゲストスピーカー
茂木直子さん

勤務で体こわして、上司からセクハラを受け職場へ行かれなくなってやめると次は非正規しかない。具合悪くなって職場に行けなくなって、首になりましたと相談に来るのですが、健康保険に入っていれば傷病手当もらえますが6割です。神奈

川県内200万円以下で働いている女性は、正規非正規を含めて60%~70%。そういう人が傷病手当6割では食べていけず一人暮らしだと生活保護になる。しかしそこまでたどり着けない女性が沢山います。

最低賃金を上げて行かないとこれは変えていけない。神奈川県で労働組合に入っている人は30年間に20万人減っています。労働組合と一緒に交渉したり行動して助けあうことも、悩むことも出来ると思います。

◆ (川崎市民基金の) DV被害の女性の自立支援を寄付金つものってやろうかと半年間調べたのですが、なかなか神奈川県の現状がはっきりわからなくて、困難な人たちがどういう道筋をたどって自立していくのか見えていない。今日は非正規シングル女性と言われる方、最近注目されてはいるのですが、実際にどういう感じなのか、社会がどういう方向に変化しているのかを聞けると思い参加しました。

お話で現状はなんとなく見えてきたのですが、社会全体がどういう方向へ向かってすすんでいくのか、殆どみえない。

川崎市民基金は寄付をつのり、シングルマザー支援団体などいくつか支援しながら、そのような団体に助成している。市民のそのような活動があれば、我々も少しお手伝いするかなと。ありがとうございました。

●大庭市議 心が痛む内容の話で、声を上げてもらえるような環境作っていかねばいけない。支援という話がありましたけど、川崎市は実態調査がやられていない。

私もリーマンショック後、貧困問題がクローズアップされたときに議員になり、毎回雇用問題を議会の中で質問もさせていただいています。必ず正規雇用の拡大にしぼって質問させていただいている。(市は)非正規を認めないとか、言葉すら答弁の中には出そうとしません。調査もしない。

若者の貧困とか子どもの貧困とか、この間言われてきました。女性の貧困ということで2016年のニーズ調査が社会問題として大きく取り上げられたが、その後低調になったという話がありました。女性が声あげられないという現状、いかに非正規雇用

で苦しんでいる女性たちが多いのかということについて、今日はいろいろ資料も頂きましたので、なんとか議会の中でも取り上げて、またみなさんと意見交換などできればと思っております。今日本当にありがとうございました。

● 某メガバンクで派遣社員で働いています。経営が苦しくなったため税金で助けてもらわないといけなくて政府のいうことはすごくよく聞きます。ボーナスを減らすという話なんですけど、時給を100円ぐらい引き下げてそれをボーナスにまわす。時給5円あがった、昇給しますよと言われた。本当に頭にきます。

● 私は大学生で卒論で「シングル女性」の研究をしていて、この前茂木さんにインタビューしました。それがきっかけで参加させていただきました。卒論のための情報収集も目的にはあるんですけど、自分がいつ非正規で働くことになるかもわからない状況があります。今日も当事者になりうる可能性があるという立場で聞き、声を上げていくことが必要だと思いました。

● 私もアルバイト2つかけもちしている非正規シングルです。川崎市と連携している図書館に本を借りに行った時、このチラシを見つけて参加しました。今日参加して、今後の自分の生きるかてになりそうよかったです。

◆ケアマネジャー 老人の方を支えるご家族の方も対象になると思うんですが、父母の年金でなんとかやっている家族もいっぱいいらっしゃるんで、そういう家族は、ご両親が亡くなった時にその人の生活はどうなるのでしょうか。生活保護あるんじゃないのと言われる方もあるんですけど、そうじゃないでしょうということもあります。

人間も貴重な社会資源の1つだと思います。大切な資源であるということをも今回の講座をきっかけに、社会全体に広げていきたいです。

● 社会全体が男女問わず生活に困っている方がすごく多くなり、(そういう状況に) 対応が出来ないと思います。

私自身シングルマザーでなかなか厳しい生活をしていて、真つ最中のときにはとてもじゃないけど誰かに相談するとか、役所に行って相談するとかの時間がまったくとれないです。

どうしようと思っているとき、頼れるのは本来家族であると思うのですが、家族にも頼れなかった



り、休むこともなかなか出来ない。声を拾い上げるだけでも難しいのかなと思います。

今だんだん落ち着いてきたので、社会問題にも興味があり、どんなかたちでこの会があるのか知りたくて今回初めて来ました。

●**キャリアカウンセラー** 非正規シングルの方の相談は最近増えていると感じています。主に私は派遣会社のカウンセラーをしているので、将来の不安について相談受けることがあります。社会構造の問題は大きいと思う一方、それを変えるにはかなり時間がかかりますので、直接的に少しでも前向きになれるような支援はないかなと今考えています。

そもそも非正規シングルの存在が知られていない、声をあげにくい当事者ということを改めて認識することが出来ました。

今ある制度や、セーフティネットがあると思いますが、情報がうまく伝わっていないというのを感じます。(情報が届けば)少しは違うのと思いました。

私もカウンセリングしているので、少しでも成功例を示してあげると、ああ自分でも何かできるんじゃないかなという気持ちになれないだろうか、どこかで負のスパイラルを断ち切れる方法はないかななど、甘いかもしれないけど、そういうふうに思いました。

◆**林弁護士** 家族に隠されている貧困はあるんだなと思います。自分の仕事の相談を振り返ってみても、典型的なのはいろんな事情で離婚をあきらめてしまう(夫から生活費をわたされていない)。賃金が非常に低いので、残業しなくても生活をしていけるような賃金に引き上げていかないといけないと思います。

もう一つは社会保障、家賃が高いので公的住宅に入れるだけでも、自分の生き方ができるという方が大勢出てくるのではないかな。苦しい家庭でも、勉強したいという方が公的住宅に入れるだけでも助かり、自分の生き方ができる。

いろんなことを我慢しなくてもいい社会にしたい。今日の話を持ち帰ってみんなと共有していきたいと思いました。

●**Sさん** ご紹介いただきましたかながわ新聞の市民発というコラムを書くボランティアの記者をしています。今回たまたま茂木さんの団体さん取材しました。茂木さんが一番言いたかったのは「**貧困は人権侵害である**」ということだと思います。

先ほどの発言で、非正規の方になぜ当事者意識が芽ばえないのか。自分が貧困だと思われるのが恥ずかしいとおっしゃったとき、私は人権意識の薄さだと思いました。

「憲法25条 国民は健康で文化的な…」そこに照らし合わせたときに、それが満たされてなかったと

シングル女性に必要な制度や支援が本当にありません。



飯島裕子さん
まとめ発言

▽夫婦と子ども2人の標準家族中心の社会制度。今、日本で1番多い世帯は単身世帯。▽年金は世帯単位。

ようやく離婚した場合の年金分割ができるようになった。シングルには何の恩恵もない。▽かたよった女性活躍推進。多くが正社員で子育て世代が中心。

非正規として生きていく権利を保障して！

▽社会保険は1か所で15時間、もう1か所で10時間 働いても今は対象にならない。

(注：1か所で週20時間以上働いて加入できる) 育児・介護など人生様々な理由でMAX100%で働けない事もある。

一人暮らしでくらす権利、再チャレンジできる社会を！ 差別をなくして！ 重い家賃負担。公的住宅つくれないうのなら例えば家賃補助、公的なシェアハウスを！(今あるのは劣悪)

きは人権侵害であるし、憲法違反であると思わなければいけない。日本人は人権意識とか権利の意識は薄いですし、権利を主張することは非常にはばかれるという文化がある。当事者意識を持ちづらいというのは、自分は権利を主張していいんだという思いを持ってないからと思っています。

この問題は根深くて男女の賃金格差の撤廃がいいのですが、それがなぜ起きているかというのは、先ほど飯島さん茂木さんもおっしゃっていた家父長制、社会保障制度がモデル家族をベースに作られている。文化と社会保障制度が結びついている。文化を変えるのは難しいから、私はいつも堂々巡りであきらめてしまっています。難しい事だと思います

社会保障制度は法律であり文化ではないので、そこを変えていかない限り無理です。世論を変えていくにはどうしたらいいか。

私はかろうじて正社員です。ただ賃金は非常に低いです。社会保障制度の仕事を少ししていたときに、私は将来貧乏ババーだと思いました。とても人ごとではないと思います。少しでもできることがあるのではないかと市民活動などやっています。

生物学的な女性は半分います。その人たちを幸せにすることは非常に大きなことと思っています。それの一助となればと茂木さんの団体を「市民発」に取り上げさせていただきました。

参加者からの感想・意見

●ずっとモヤモヤと思っていたテーマで、さまざまな世代のそれぞれの問題があると気づかされます。今日出席させていただいて良かったです。あたりまえの生き方がしたいだけです。

週4日、33年間非常勤講師として働いた結果が不安いっぱいという老後が待っていました。「自由な生き方」と非正規の働き方を位置づけて、企業は内部留保です。制度を司るのは守られた公務員ですので、3号の無拠出年金の存続も遺族年金全額非課税も続くことでしょう。何とかしなければと思います。

●まさに非正規シングルで働いている。本当は正社員で働きたい。(35歳以上になると実際厳しい) 定年まで働くと考えればもっと窓口が広がってもよいと思うが社会的に難しい。

年齢が高くなるにつれ重労働に近い仕事になっていくのがおかし。

●非正規シングル女性をはじめとする、なかなか見えずらい問題を身近に捉えられるいい機会でした。

●まさしく、私もかなり高学歴(東大)です。しかし、あと数年で還暦ですが、今回たまたま採用されて仕事をしていますが、え、これを、こんな仕事をわたしにさせるか?(簡単な英文作業、事務作業) ゆえに、こんな仕事をするためなら、仕事をしたくないとも思う。

社会構造と学歴と仕事内容のギャップがありすぎの社会です。

●女性の貧困、身をもって体験してきました。社会の体制と個人の考え方(自覚)…いろいろ考えさせられました。



たくさんの感想が寄せられました

20代1人	川崎区1人
30代3人	中原区3人
40代2人	高津区3人
40代2人	宮前区2人
60代6人	多摩区2人
70代4人	麻生区1人
	市外8人

参加者41人
(アンケート回答 26人)

●家族がいれば同居していれば安心という、おおかたの思い込みにより、苦しい思いをされている方が多いようです。今日改めて感じました。

●表には出てこない(マスコミなども出さない) 現実を聞くことができた。私が特に感じている自己責任を本人たち自身が背負ってしまっていること。政治や雇用などが悪い方向へ行っている今、どこから解決策を導いていったらよいのか、自身も当事者として考えてみたい。

◆茂木さんの当事者の姿勢、飯島さんの最後の話は具体的でよかった。私と同じでうれしい!

◆飯島さんのお話の中で、経済的DVの話が個人的に刺さりました。私の母は「父が自分の趣味やプライベートに使った家のお金を返してもらっていない」とずっと言っています。母自身が家計維持に必要な費用を父に求めることをもつとする必要があるのかもしれませんが、そもそも家父長に依存せざるを得ない社会構造や、自分の給料は自分の物だと思っている父自身に問題があるのだと思っています。それが分かって言えないのは、

父の権力(そこまで重視しなければいけないものかわかりませんが)を恐れているからかなと思うと、自分のすべきことを考えて母の負担を減らしたいと思います。

◆今日はとても良い問題の講座に参できて嬉しく思います。自分の若い頃は現代の女性の立場から比べると職業に恵まれ、自分自身も大企業ではなく一般企業に勤めてきた。

15-75才まで働きやっとなん年金生活をしています。女性の貧困、年寄りの貧困などを考えると国の制度の貧しさを感じます。

◆社会構造・声をあげて世論に訴えていくことが大事だと感じました。

◆とても勉強になった。社会の中で女性の貧困が見えにくくなっている現状を少しずつでも変えていきたいと改めて感じた。お二人のお話から力づけられた。社会構造の中で起きていることを「自己責任」という言葉で当事者が納得させられていることを悔しく思う。

◆あまり取り上げられない、目に止まりづらいテーマゆえに当事者意識も持ちにくい気がするので、今日のように考える場が増えるのは大事だと思います。

◆今の政権が続けば、さらなる格差社会が広がっていくのではないかと思われる程、格差が広がってきている。自分が非正規なのは貧困なのは「自分のせい」とあきらめてしまう状況を、本人のせいではなく、社会の仕組みが問題なのであり。声



を上げることは「自分のせい」ではないことの声が社会の主流にしていくことが必要。

◆自分が「当事者」であると認識できない、したくない心理も問題解決を難しくしているとも思います。

ベーシックインカムなど、いいと思います。財源は？

◆現状は少しわかった。これからは？だれが？何を？

◆ありがとうございます。ぜひ第2弾お願いします。議会でも取り上げていけるよう相談したいです。

◆貧困、社会保障の貧弱化にストップをかけるべく、今日、会場内に充満した雰囲気（社会システムの改善）を自分たち一人ひとりの周りに広げていくことが大切だと感じました。

◆改悪された法律は人の手でまた変えることができるのではないかと、という言葉に勇気をもたらしたように思います。貧困の中にいる人が増える中、公務員の給与が上がるといったニュースを聞いたり、自身の離婚経験の

中で感じた不平等への怒りを良い形にして表せてらと思えます。

◆非正規シングルの存在が知られていない現状、声を上げにくい当事者の気持ちを改めて認識することができた。

◆社会構造の問題は大きいと思う一方、それを変えるのは時間がかかるので、今ある制度やセーフティーネットや資源活用、当事者に届ける仕組みを充実できないだろうか。また、非正規の人でも何かの支援や意識改革をきっかけに、社会的に独り立ちできたという成功例も示せると少し自己効力感あげられるのでは。どうすれば負のスパイラルを断ち切れるのか考えさせられた。

◆参加者の意見交換が多かったのが良かった。

◆参加させていただけて良かったです。今後、生きていくためのかてになりそうです。自分のせいだけで今の状況に陥っているわけではないのですね。

◆支援や情報の収集方法、成功体験を聞き前向きになれば違うと思ったので参加してみた。

◆大変よかったですと思います。勉強になりました。人権(意識を)深める、差別撤廃条約を学ぶことが大事。

◆辞めざるを得ない労働現場があること、そこをどうするか。今それどころではない人をどうするのか。考えさせられました。

◆女性の人権侵害は女性もまた加担している。支援ももちろん必要で公的住宅が増えるとよい。でも、根本から変えなければ何も変わらない。横につながり合い企業の利益のために人権が侵害される働き方を変えよう。非正規でも健康で文化的な生活ができる給料にしていこう。労働組合も1つの手です。

◆すでに70歳近い人間が生で経験することは少ないが、私たちの子どもが大変な時代、日本の将来が見えなくなっている。親亡き後の若者の暮らしと未来があまりにも暗い。

今後取り上げて欲しいテーマは？

▶このテーマで第2弾があってもよいのでは、茂木さんのお話、よかったです。

▶ひき続き、このテーマで解決に向けた方策を深めてほしい。

▶女性におこりやすい人権侵害、ジェンダーギャップについて。

▶現実問題として、やはり経済、現役退職後の(問題点)現状と対策について。片寄った制度。

▶ハラスメント問題

▶現実的にはライフプランの相談とか、窓口があればと望みます。

▶「普通の人」でも当たり前になっている生きづらさについて

▶シングルで今後、介護も背負う身としては、頼れる支援などを把握しておきたい。めいっばい働いていると情報がなかなか(平日は厳しい)どこで収集したらよいかわからない。そういう情報をまとめて教えてくれるたりすると助かる。

▶当事者同士がつながる意味を当事者の方々自身がどう考えていらっしゃるのか。

▶週4でフルタイムで、自立できる社会を作るには、どうすれ

ばよいのか考えていけたらよいかな？

▶仕事の問題を考えるテーマ是非やってください。

▶一度リタイア、40代ぐらい仕事を辞めてしまうと非正規の雇用が難しい現実。働き方改革でだいぶ取り上げられてきたが、果たしてどのように成果が出ているのか？

▶高齢者の再就職問題・女性の雇用環境について



■現代日本画家内田あぐりさんら神奈川文化賞

10月11日、第68回神奈川文化賞と文化未来賞が発表された。芸術の分野では新たな日本画の可能性を示してきた内田あぐりさん（70）、1993年山種美術館展大賞、2002年東山魁夷記念日経日本画大賞を受賞。

文化未来賞「芸術」は伊関エレナさん（17）、横浜のバレエ教室で基礎を培い、2014年からベルリンの国立バレエ学校に留学。国立バレエ団の公演「くるみ割り人形」第1幕の役を演じるなど国内外で才能を発揮する。18年には「パルナ国際バレエコンクール」ジュニア女性部門で3位に。

■ピアニストの国府弘子さんら川崎文化賞

川崎市は「第48回川崎文化賞」などの受賞者を発表した。文化賞にはかわさき市民アカデミー学長の太田猛彦さん（77）とピアニストの国府弘子さん（60）、日本舞踊教授の藤嶋とみ子さん（75）が選ばれた。

社会功労賞にはNPO法人「たまりば」理事の西野博之さん（59）が選出された。

今後の活躍が期待される「アゼリア輝賞」には、フルート奏者・作曲家の鈴木菜穂子さん（32）、幕内力士の友風勇太さん（24）に決まった。

■緒方貞子さん死去

国連難民高等弁務官として日本人で初めて難民支援に貢献した国際協力機構（JICA）元理事長の緒方貞子さん（92歳）が10月22日午前2時18分に東京都内の病院で死去とJICAが発表した。

聖心女子大卒業後、米カルフォルニア大学で政治学の博士号取得。国際基督教大学准教授から1976年に国連公使に起用された。国連人権委員会の日本代表などを務め91年から2000年末まで国連難民高等弁務官を務め、財政の立て直しや、イラク・クルド、ルワンダ難民支援に当たる。退任後はアフガニスタン復興支援政府代表を務め、03年からは新設の国際協力機構の理事長を8年半務め、途上国支援に尽力した。

■文化功労功者に歌人の馬場あき子さんら

10月29日に文化勲章とともに文化功労者が発表された。

麻生区在住で歌誌「かりん」の馬場あき子さん（91）、照明デザイナーの石井幹子さん（81）、俳人の宇多喜代子さん（84）、漫画家の萩尾望都さん（70）、音楽プロデューサーの渡辺美佐さん（91）

■波紋広がる「慰安婦問題」—解決を求める声

10月5日、中原市民館で「川崎から日本軍『慰安婦』問題の解決を求める市民の会」結成10周年の記念集会在180人の市民の参加で開かれた。求める会が「日本政府に『慰安婦』問題の解決を求める意見書」を市議会が国に出す運動に毎年取り組むなかで、被害者との交流で実現した被害者の証言と「女たちと戦争と平和資料館」名誉館長の池田恵理子さんの講演などが取り組まれ、被害者の存命中に解決をの声を上げた。

しんゆり映画祭で上映が決まっていた「主戦場」が急に中止になり、驚きと怒りが広がった。映画祭は毎年NPO法人「KAWASAKIアーツ」が主催し事務局を運営、上映作品はボランティアを含むスタッフ70人の投票で選んでいる。市や市教育委員会が共催しており、開催費用1300万円のうち約600万円を市が負担する。慰安婦問題を題材にしている映画の一部出演者が上映禁止を求めて訴訟を起こしていることを受け、共催の川崎市が主催者のNPOに懸念を伝えていた。公開討論会が27日、アートセンターで開かれ、抗議や上映を求める声、防衛協力の声を受け、11月4日の上映が決まった。

●これからの活動

12月2日(月) 幹事会10:00～すくらむ21

●活動日誌

9月20日(金) 通信印刷・発送

9月21日(土) ぐえん楽市市民活動センター

10月5日(土) 幹事会10:00～すくらむ21

10月18日(金) 幹事会10:00～すくらむ21

10月27日(日) 学習会「非正規シングルの現状とこれから」13:30～すくらむ21

11月13日(水) 幹事会10:00～すくらむ21